

大会宣言

～連合運動の前進をめざして～

私たちは、本日の第17回定期大会において、2005年度の取り組みの総括を行ない、向こう一年間を展望した「2006年度活動方針」を決定しました。

激動する社会情勢のなかで、労働運動の果すべき役割をふまえ、主要課題の前進に向けて、連合沖縄、構成組織、地域協議会が一丸となった取り組みを展開していくこととします。

その一つ、組織強化と組織拡大の取り組みを全力で取り組みます。

労働運動の社会的影響力を高めていくために、自らの組織強化を積極的に取り組むこととし、あわせて、1200万人とも言われる未組織労働者との連携を強化するなかから、組織拡大の取り組みの前進を期していきます。

その二つ、労働条件の維持向上に向け、全力をあげて取り組みます。

労働条件の維持向上は労働組合の最大の労働課題であり、同時に、企業内に閉じることなく、臨時・派遣・パート・契約労働者など、未組織労働者の賃金改善にも視野を広げた運動を展開していきます。

その三つ、政策制度実現に向けた政治活動を強化します。

労働組合の政策制度要求を実現させるためには、政治への関与が極めて重要なことは言を待ちません。私たちの声を代弁しうる政党・政治家との連携強化をめざして、主体的な立場に立って政治活動を強化していきます。

その四つ、平和を求める運動を積極的に推進していきます。

人間が安心して生存していくためには、「平和」が最も大切なキーワードであるとの観点に立ち、平和が脅威にさらされる可能性のある事象に対しては、戦後60年の歴史をふまえつつ、組織的な合意形成を得た上で、組織の総力をあげて対峙していくこととします。

その五つ、安心して働き続けられ環境づくりに向け、労働安全衛生活動を積極的に推進していきます。

日に日に厳しさを増す経済環境の中で、労働者は劣悪な環境のもとでの就労を強いられ、常に危険にさらされるとともに、精神的にも追い込まれた状況となっています。「安全なくして労働なし」を合い言葉に積極的に取り組んでいくこととします。

連合沖縄は、結成時の「顔あわせ」から「心あわせ」そして「力あわせ」を原点に、社会の変化や多様な価値観を持つ組合員と未組織の仲間、市民のニーズにも対応しうる運動の推進をめざしていくことを宣言します。

2005年10月26日

日本労働組合総連合会

沖縄県連合会第17回定期大会